

JP3098429U

Publication number: JP3098429U

Publication date: 1991-10-14

Inventor:

Applicant:

Classification:

- international: *G03B17/24; G04G1/00; G04G5/00; G03B17/24; G04G1/00; G04G5/00; (IPC1-7): G03B17/24; G04G1/00; G04G5/00*

- european:

Application number: JP19900006410U 19900125

Priority number(s): JP19900006410U 19900125

Report a data error here

Abstract not available for JP3098429U

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3098429号

(U3098429)

(45) 発行日 平成16年3月4日(2004.3.4)

(24) 登録日 平成15年10月1日(2003.10.1)

(51) Int.Cl.⁷

H01B 17/56

F I

H01B 17/56

C

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2003-3334 (U2003-3334)
 (22) 出願日 平成15年6月9日(2003.6.9)

(73) 実用新案権者 398012971
 寺田 肇
 東京都世田谷区深沢4-34-18
 (72) 考案者 寺田 肇
 東京都世田谷区深沢4丁目34番18号

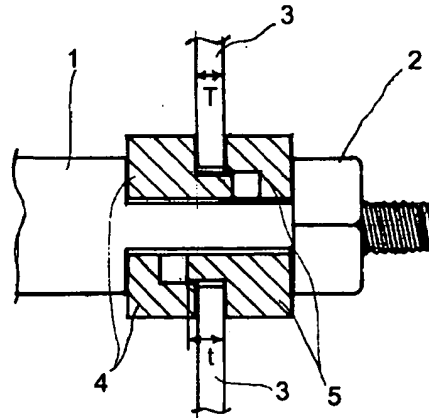
(54) 【考案の名称】 隔壁用絶縁物

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 隔壁を貫通する導体を隔壁の板厚に関係なく、絶縁物を取り付けることができる構造にする。

【解決手段】 斜線で示した絶縁物4突起部の円周部分を分割し、山部と谷部に分ける。絶縁物5の絶縁物も同様に、山部と谷部に分割する。絶縁物4の山部は絶縁物5の谷部、絶縁物5の山部は絶縁物4の谷部に互いにもぐり込める寸法関係にしておく。

【選択図】 図3



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

本考案は図 3 と図 4 に示すように、斜線で示した絶縁物 4 の突起部の円周部分を分割し、山部 6 と谷部 7 に分け、絶縁物 5 も同様にしたものである。絶縁物 4 の山部 6 は絶縁物 5 の谷部 7、絶縁物 5 の山部は絶縁物 4 の谷部に互いにもぐり込める寸法関係にすることで貫通導体 1 を隔壁 3 より絶縁することが出来る絶縁物。また、隔壁 3 の板厚 T が厚くても、従来通り図 1 で示した方法で 사용할ことが出来る絶縁物。

【考案の詳細な説明】

【0001】

【考案の属する技術分野】

本考案は金属筐体などの隔壁を貫通する導体を絶縁するための絶縁物に関する考案である。

10

【0002】

【従来の技術】

図 1 は従来より用いられている絶縁物の構造で、貫通導体 1 はネジ部などをもった導体。締付けナット 2 で T の厚さを持った隔壁 3 斜線部分は絶縁物 4 および絶縁物 5 で、貫通導体 1 を隔壁 3 から絶縁している。この構造のものは、絶縁物 4 の突起部の高さ t_1 と絶縁物 5 の突起部の高さ t_2 の合計より厚い寸法の隔壁には使用出来るが、それより薄い板厚の寸法を持った隔壁 3 には使用出来ない。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】

本考案は金属筐体などの隔壁を貫通する導体を隔壁の板厚に関係なく、絶縁するための絶縁物を取り付けるが出来る構造にすることである。

20

【0004】

【課題を解決するための手段】

本考案は図 3 に示すように、斜線で示した絶縁物 4 突起部の円周部分を分割し、山部 6 と谷部 7 に分ける。絶縁物 5 の絶縁物も同様に、山部 6 と谷部 7 に分割する。絶縁物 4 の山部 6 は絶縁物 5 の谷部 7、絶縁物 5 の山部 6 は絶縁物 4 の谷部 7 互いにもぐり込める寸法関係にしておくことで解決する。

【0005】

【考案の実施の形態】

本考案は隔壁 3 の厚さの寸法 T が極めて大きい物から 0 に近いあらゆる状態で貫通導体 1 を隔壁 3 から絶縁することができる。

30

【0006】

【実施例】

図 3 は本考案の隔壁近辺の断面図であり、図 4 は本考案の絶縁物を貫通方向と横方向から見た図である。図 4 に示すように、斜線で示した絶縁物 4 突起部の円周部分を分割し、山部 6 と谷部 7 に分ける。絶縁物 5 も同様に、山部 6 と谷部 7 に分割する。絶縁物 4 の山部 6 は絶縁物 5 の谷部 7、絶縁物 5 の山部 6 は絶縁物 4 の谷部 7 に互いにもぐり込める寸法関係にすることで、隔壁 3 の厚さの寸法 T が、絶縁物 4 および絶縁物 5 の突起部の山部 6 の寸法 t より薄くても、絶縁物 4 或いは絶縁物 5 を回転捻り、絶縁物 4 の山部 6 は絶縁物 5 の谷部 7 に入り込み、貫通導体 1 を隔壁 3 より絶縁することが出来る。また、隔壁 3 の板厚 T が厚くても、従来通り図 1 で示した方法で 사용할ことができる。

40

【0007】

【考案の効果】

本考案は金属筐体などの隔壁を貫通する導体を隔壁の板厚に関係なく、絶縁するための絶縁物を取り付けるが出来る。

【図面の簡単な説明】

【図 1】従来の隔壁近辺の断面図

【図 2】従来の絶縁物を貫通方向と横方向から見た図

50

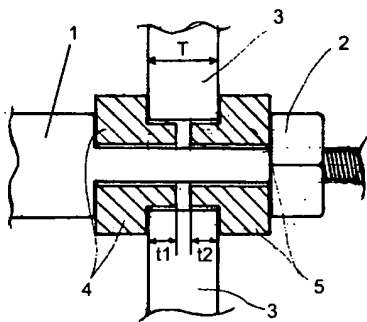
【図 3】 本考案の隔壁近辺の断面図

【図 4】 本考案の絶縁物を貫通方向と横方向から見た図

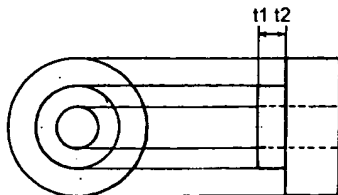
【符号の説明】

- 1 貫通導体
- 2 ナット
- 3 隔壁
- 4 絶縁物
- 5 絶縁物
- 6 山部
- 7 谷部

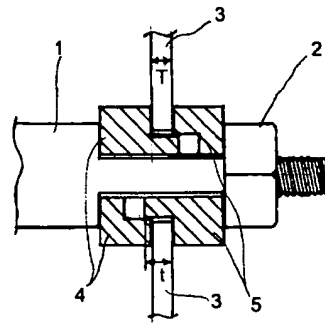
【図 1】



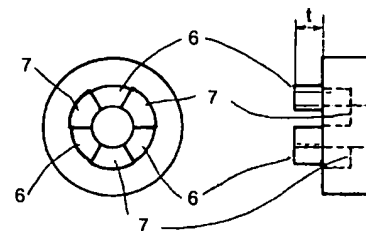
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【手続補正書】

【提出日】平成15年7月7日(2003.7.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】実用新案登録請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】

金属等の隔壁と貫通導体を接触させないために隔壁を挟んだ2体の絶縁物で、貫通導体に接する円周部分の突起部を山部と谷部に分割し、薄板の隔壁に使用する場合、2体の絶縁物の山部と谷部が互いに潜り込める構造にした隔壁用絶縁物。